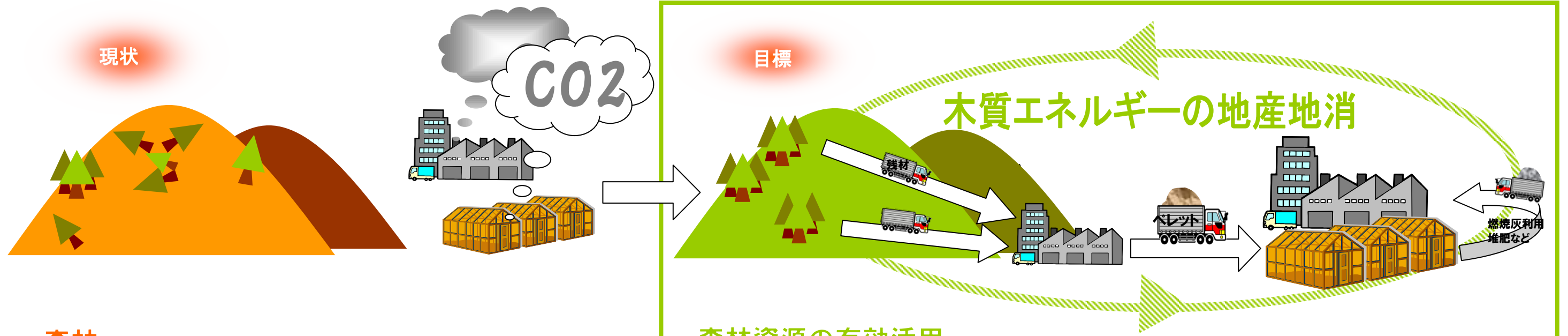


木質バイオマスエネルギー利用促進協議会について



現状

目標

木質エネルギーの地産地消

燃焼灰利用
堆肥など

森林

- 森林資源は豊富であるが、林地残材は利用されずに放置されている。
- 出材コストにあう安定的な利用先が無い。

農業・工業等エネルギー利用産業

- 燃料費として多額の費用が地域外(国外)に流出している。
- 産出国の状況により変動する重油価格の影響を受けやすい。
- 生産において多量の温室効果ガスを排出し、環境に負荷をかけている。
- 生産物消費者の環境意識の高まりにより、販売にも影響。

課題

- 燃料用材出材のシステム化確立によるコスト削減
- バイオマス燃料の安定的な需要先の確保
- バイオマス燃料の流通、燃焼灰の処理・利用の仕組みづくり
- 低コストで優良な利用機器の開発
- 木質バイオマスエネルギー利用についての県民(消費者)へのPR
- 環境価値還元のための仕組みづくり

⇒木質バイオマスエネルギー利用の経済性確立

協議会の役割

森林資源の有効活用

未利用だった林地残材に価値が生まれる

エネルギーの地産地消

海外動向に影響されない価格の安定したエネルギーの利用で経営の安定化及び地域貢献。
(地域外に流出していた燃料費は県内の産業へ)

工業製品出荷額

高知県内の企業において優良なバイオマスエネルギー関連機器の開発

- 林地残材収集機器
- 燃料製造機器(ペレット、チップ、パウダー、エタノール等)
- ボイラー・ストーブ等利用機器(業務用、家庭用等様々な用途)
- 各種計量機(熱量等)
- 燃料配送機器 など

二酸化炭素排出量削減

排出量取引等による地域への還元

その他の効果

- 関連産業における雇用の創出
- 生産物への付加価値
- 消費者へのPR(産地の取組等)
- 環境製品の有利販売

⇒環境と経済の両立